

日本資本主義の内在的要因を見逃すな！

■米国の世界戦略を補完する「自衛隊」

での上下両院議会演説で、「今日のウクライナは、明日の東アジアかもしれない」と訴えた。そんな安直なロジックがあり得るなら、現在のウクライナ戦争が米口の代理戦争の様相を露わにしているのと同じように、今日のウクライナは明日の日本、となり、日本は米中の代理戦争を無理強いさせられる事態にもなるのだ。

そんな無責任な構図は、沖縄の辺野古基地建設にも見える。辺野古の軟弱地盤埋め立てるために、10年以上もかかり、米国側でも完成時期は早くして37年以降、そもそも完成できないとの評価もある。当初想定していた費用3500億円もとうに使い終え、最終的に2〜3兆円になるとの試算もある。にもかかわらず埋め立て計画の撤退はむろん、先行きの見通せないまま、ただ米国との約束を守るためにだけ続ける、という無責任さだ。

完成予定の35年頃には、それを推進する政権中枢の現在の政治家は誰も残っていないだろう。仮に建設が予定どおりうまくいっても、その時点で在沖米軍が、戦術上、沖縄などからグアムなど後方に配置換えしていることだってあり得る。どちらも全くの無責任と言っ他はない。

（廣）

日本の軍拡は単純な「対米従属」ではない

今回の四月の日米共同声明では、5月末の日米外務・防衛担当閣僚会合（2プラス2）で「突っ込んだ議論」を行うことで一致しました

が、今後自衛隊がますます米国の軍事戦略と一体化していくのは間違いないところです。こうして、政府と自衛隊は完全に「専守防衛」を投げ捨て、米国のグローバルパートナーとして、具体的には対中国（対ロシア）軍事包囲網の形成のために、世界的規模で米軍を補充しつつ米軍の指揮の中に組み込まれることになりま

す。防衛費のGDP比2%への増額や敵基地攻撃能力の保有、防衛装備移転三原則と運用指針の改定などを米国は当然「歓迎」しました。「岸田は自衛隊を米国に差し出したも同然なのだ」と『日刊ゲンダイ』が憂慮するのは当然です。

ただし、これが『日刊ゲンダイ』の記事のような単純な「対米従属」か、といえはそうではないのです。この点が大変重要で

日本の軍拡勢力、すなわち、政府、自民党国防族、防衛省、自衛隊、経団連そして極右反動派などが米軍との深い同盟関係を利

用して、アジアそして世界の軍事大国として台頭する意志を示したのです。そのように理解すべきです。

■米国の戦略転換に積極参加する日本の軍拡勢力

例えば中国やロシアは反米や非米国家として米国勢力圏に与することなく軍事力を増強していきま

す。ゆえに、米国からの激しい圧力を受けています。それに対して日本は、「米国と共に」そして米国の相対的な国力低下の中で、その足らざる点を補う形で軍事力の増強とその世界展開を目指しているのです。ある意味では極めて狡

次に来米側の思惑に沿ってみてみましよう。米国の戦略家たちは中東などの地域に対する介入を減らし、中国けん制に力を集中させるとともに、同盟国により多くの役割と費用を負わせる戦略を構築してきました。米国を中心とした従来の二国間同盟（米日とか米韓同盟）から一歩踏み出そうという

ことでは、米国の近年採用しようとしているのがミニラテラル同盟構造なのです。米国と日本、インド、オーストラリアなどの主要同盟国が中心となり、複数の小規模な「多国間同盟」を組み合わせたネットワーク型安全保障体制を指します。

例えばQUAD：米国、日本、インド、オーストラリアによる四方国安全保障協力枠組み、AUKUS：米国、英国、オーストラリアによる潜水艦技術協力枠



■日本軍国主義の秘められた衝動

日本は、このような米国の世界戦略の変化に積極的に乗ってゆくことし、とくに安倍政権以来かなり強引なペースで軍拡と米国との「同盟強化」と「多国間同盟」の拡大を図ってきました。その背景にあるのは、日本資本主義の対外投資が「純資産」としては世界一位であり、守るべき権益があらゆる大陸に及んでいるという現実です。日本は一時代昔には「貿易立国」と言われてきましたが、現在では——もちろん貿易は依然として重要ですが——資本の海外投資が飛躍的に進んだのです。（参照「世界が恐れる「日本化」という病」その裏側に見る新たな世界搾取システムを読み解く」2023/1/1「ワーカーズ」）

ゆえに米国が「世界の警察官」としての立場をもち維持できないのであれば、その空隙を日本が軍事力を飛躍的に高めて埋めてゆくということでは、民衆にとってはリスク増・負担増にしか過ぎなくとも、日本国家の支配層にとっては軍力プレゼンスの国際化はある種の必然性、必要性が存在するのです。裏返して言えば、日本単独では不可能な日本の持つ世界的権益の保護を、「米国との世界的同盟」で実現しようとしていると考えられます。日本の軍拡の動機は、米国からの「強要」ではなく日本資本主義の内部にこそ存在するのです。

民族主義的な反発でしかない「反米」や「対米従属論」では反戦・反軍拡をこの日本では戦えないことを理解する必要がありません。（阿部文明）

政治家はなぜ嘘つきなのか？

民衆の直接的な政治参加のシステムに移行すべきだ

■「嘘つきは政治家のはじまり」

「嘘つきは安倍晋三のはじまり」と言う有名な言葉がありますが、「嘘つきは小池百合子のはじまり」でもありました。酷い学歴詐称事件でした。嘘が彼らを著名な政治家に育ててきたのです。マスコミのだらしなさも露呈しています。学歴詐称事件では関係者の告白や暴露が無ければ迷宮入りでした。

彼ら政治家は口を開けばだらめを言い国民にこびへつらいあるいは恫喝し裏では自分たちの利権と権力の確保の政治を走ってきました。その道具がまさに「虚言」なのです。

■政治家はなぜ嘘つきなのか？

自民党裏金問題は、何の解決も見えないままに数か月がたちます。4月に米国で「国賓」になった岸田首相をはじめ、問題政治家の虚偽証言、開き直りが当た

り前になっていきます。残念ながら政治家のほとんどあるいは大多数が虚言を弄する人たちです。つまり「嘘つきは政治家のはじまり」というのが現実です。代議員たる政治家が業界団体の買収により国民の声を「代議」できないことが今更けい明らかになったことはありません。

しかし現代の多くの政治家が嘘つきであることには理由があるのです。すでに周知のように合法寄付であれ非合法（闇パーティー）であれ、財力のある団体に議員は抱き込まれ半ば買収されています。しかし、他方では、選挙を勝ち抜くには一般労働者や市民の票も欲しいわけですから、このようなジレンマが政治家をして嘘つきを習性にしてしま

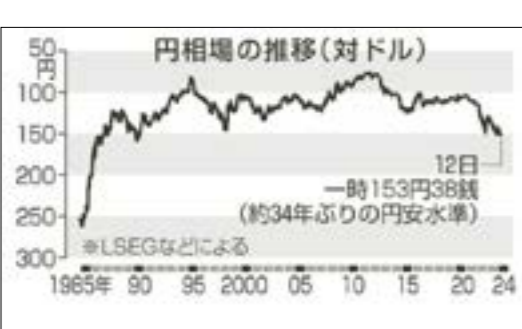
■政治を取り戻すために

代議士たちがその任に相応しくないのですが彼らを落選させたくとも巨額の裏金で「選挙区有権者」を買収しており、国民



日銀による「政策転換」が行われて一か月がたちます。この転換は、政府・財界の思惑から挙行されたもので、短期的には労働者、勤労者の利益を損ないかねないものです（日銀「金融引き締め」転換は労働者と弱者の切り捨てだ：「ワーカーズ」653号参照）。

超低金利、マイナス金利政策から「とりあえずプラス転換」が実施されましたが、円ドル関係では下がり気味です。流れは変わっていません。ドルも上下しますから「実質実効為替レ



円安傾向は日本の産業衰退の象徴 日銀の金利政策ではどうにもならない

「政治家」つまり現代の職業的政治家は代議員が嘘つきで権力や富だけを求めるのであれば、彼らに代わって私たちが直接に政治や経済を動かすべきです。いや、本来の主権者である大多数の勤労者市民が、インターネットなどの活用の上で直接的議論参加と最終的な決定をすべきです。

現代の代議員制度は、政策決定や立法に関しても多くにも多くの権限が集中しています。ゆえに代議員である彼らは各種経済団体の買収のターゲットです。寄付行為や政治家の「パーティー」などは合法であっても事実上の買収なのです。職業政治家は容易に政策を捻じ曲げます。こうしてみれば誰のために代議員制度が長期にわたって日本に（あるいは世界に）存在するのかが明らかです！

本来の主権者である労働者・勤労市民が政策や立法の主導権を握れるように、国民投票Ⅱ直接民主主義制度を拡大すべきです。（阿部文明）

で輸出産業を維持してきました。しかしそれがもはや産業の衰退も招いたのです。

産業政策が問われているので、とりわけ、エネルギー政策と食料政策がそれです。

例えば、自然エネルギーの豊かな日本は、この条件を利用して発電エネルギーを代替えすればよいのです。自然エネをテコ入れて化石燃料を中東から買

うのをやめるとは言わなくても、例えば半分に減らせばよいのです。これは可能な政策です。それにより、年間30兆円の油代金を15兆円に減らすだけで、極端な円安にブレーキをかけられるのです。食料政策も同じことです。海外依存を極力低下させることですが、日本政府は無関心なようです。

だから、円安対策は日銀の金利政策以前の産業政策の問題です。ところが日本政府はそのような簡単なこともまじめに取り組みません。ゆえに円安は続き、インフレも止まらず低賃金も継続されます。

「日銀政策になにも期待できない。円安対策も賃金も、資本主義の低体温症は死に至る病」(ワーカーズ・プログ2024/01/30)もご参照ください。(阿部文明)

アイヌ民族に「謝罪」表明 文化人類学会 遺骨持ち出し研究で世界規模の拡散

■文化人類学会とアイヌ遺骨問題 世界的な研究機関の重大な関与

文化人類学会とアイヌ遺骨問題とは、アイヌ民族の遺骨が、日本の大学や研究機関だけでなく、欧米諸国の大学や博物館なども含む世界各地の機関で、無断または不十分な同意に基づいて収集・研究されてきたという問題です。この問題は、アイヌ文化への差別や当時の植民地主義の歴史と深く結びついており、人種学や人類学においては、欧米人を中心とした「人種階層論」

という考え方がかつて主流であり、アイヌは「劣等民族」とみなされ好奇の目で研究対象となることがありました。近年になってようやく広くその非人道的問題が知られるようになりました。

■世界的な 大学・博物館が収集

北海道大学をはじめ、東京大学、京都大学など、日本の主要な大学がアイヌ遺骨を大量に収集・研究してきたことはよく知られています。しかし、近年では、欧米諸国の大学や博物館も

アイヌ遺骨を所蔵していることが明らかになってきました。

西欧の有名大学・博物館などは次のようです。アメリカ：ハーバード大学、スミソニアン博物館、フィールド自然史博物館など。イギリス：大英博物館、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学など。フランス：パリ人類博物館など。ドイツ：ベルリン人類博物館など。

これらの機関は、19世紀後半から20世紀にかけて、日本政府や研究者からアイヌ遺骨を購入したり、寄贈を受けたりしたものです。

■アイヌの怒り

どんな人間でも、先祖の墓が暴かれたり遺骸や骨を持ち出されたりすれば尊厳が傷つけられるのが当然です。ですからこの世界でも禁忌とされ、それを犯せば犯罪となります。ところがアイヌ遺骨が勝手に掘り出され、世界各地に持ち出された背景には、上記したように当時の欧米における植民地主義から導き出された「人種学」(白人を優秀人種として、アフリカやアジア人を劣等人種とする研究もあった)や「人類学」における偏見や差別意識があります。つまりアイヌの人権は一顧だにされませんでした。

アイヌ民族にとって遺骨は単なる研究材料ではなく、先祖の霊魂が宿る神聖なものです。アイヌの伝統では、遺骨は死者の霊的な存在を表し、祭祀や儀式において重要な役割を果たします。遺骨を祀ることで、先祖や祖先とのつながりを保ち、彼らの尊厳や意思を尊重することができると信じられています。ゆえに他人が墓地から持ち出すことは恐ろしい罪とされており、アイヌの遺骨の所蔵や展示は、アイヌの人々にとって深い精神

的苦痛を与えてきました。近代社会が犯したこのような「野蛮」な行為はアイヌの文化的アイデンティティを脅かすものとして強く批判されるべきです。

■理解は少しずつ進んでいる…動き出した返還と謝罪

近年、アイヌ民族の権利意識の高まりとともに、世界各地の機関で所蔵されているアイヌ遺骨の返還を求める声が上がっています。2016年には、北海道大学がアイヌ遺骨約800体をアイヌの人々に返還しました。また、2019年には、スミソニアン博物館がアイヌ遺骨約120体を北海道に返還しました。しかし、依然として多くのアイヌ遺骨が世界各地の機関で所蔵されており、返還に向けた交渉は困難な状況が続いています。これらの課題を解決していく



「秋サケを迎える伝統儀式「アシリチェブノミ」を行うアイヌ民族団体のメンバーら 北海道浦幌町 (A. B.)

★ リニアと都市開発

「国家的事業」に集く利益構造

リニアモーターカー (linear motor(motour) car、略語: リニア)とは、超電導リニアの最初の開発者であった京谷好泰が名付けた和製英語で、日本では主に超電導磁気浮上式鉄道を指し、リニアモーターにより駆動される乗り物である。

主な種別として、磁気で車体を浮上させて推進する磁気浮上式と、浮上させず車輪によって車体を支持し、推進及び電磁ブレーキにリニアモーターを利用する鉄輪式があり、その他の分類としては、「軌道一次式」と「車上一次式」があり、要するに回転式モーターの場合の、「固定子一次式」と「回転子一次式」のよ

うなもので、(常伝導の)電磁石により極性を変化させて駆動力を発生させる側が「軌道」と「車上」のどちらか、ということである。

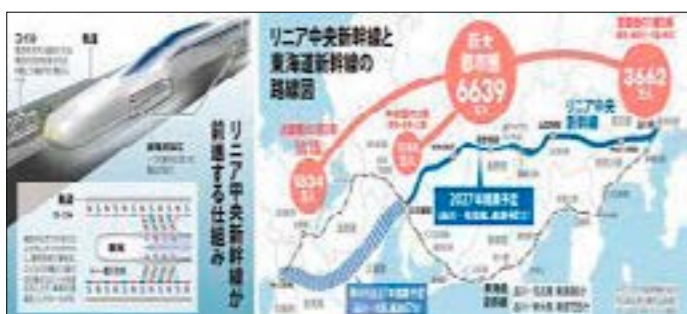
リニアは世界各地で実用化されているが、リニアは無人運転が可能で、最高速度が550km/h(日本では603km/h確認されている)、東京(品川)〜新大阪間を67分で結び、その所要時間の2時間25分の半以下に短縮されることが可能とされる。

そこに目をつけたのが、地方よりも都市、個人よりも国家、「力」というものを重要なものだと考えていたJR東海のイデオログで安倍晋三元首相の後見人として知られたJR東海故・葛西敬之名誉会長や安倍晋三元首相である。

彼らはリニア中央新幹線構想を立ち上げ、「東京〜名古屋〜大阪の日本の大動脈輸送を二重系化し、東海道新幹線の将来の経年劣化や大規模災害といったリスクに抜本的に備えるためのプロジェクト」「国民経済の発展及び国民生活領域の拡大並びに地域の振興に資することを目的に、国にとって基幹的なインフラを整備するための法制である全幹法に則って、建設している」「超電導リニアによる中央新幹線の実現は、東京〜名古屋〜大阪の日本の大動脈輸送を二重系化し、さらには、三大都市

リニア中央新幹線建設への疑念

JR東海は自己負担による超電導リニア方式(超電導磁気浮上方式)での建設を発表し、国土交通省はJR東海に対し超電



圏が一つの巨大都市圏となるなど、このスーパー・メガリッジョンによって日本の経済・社会活動の活性化に貢献。」するとして、「国家的事業」としてリニア中央新幹線建設計画を策定し、推し進めている。

リニア中央新幹線は、JR東海が事業主体となり、2037年には新大阪まで延伸開業する計画だ。計画では、首都圏では土地買収が難しく、騒音対策も実施しなければならぬことから、建設費の総額が9兆円にも上る巨大開発事業である。そうなるJR東海という1社の民間企業では負担が大きい。かつ東京〜大阪間という日本の大動脈を支える社会インフ

ラでもあることから、安倍内閣時に公的資金として、3兆円の財政投融資が投じられることになっている。

整備新幹線は鉄道・運輸機構が主体となって建設を進めているが、国の意向が強くなり、政策的な「国家プロジェクト」だが、リニア中央新幹線はJR東海という民間企業が国を後ろ盾に進めている。「国家的プロジェクト」である。建設主体がJRという民間企業が「国家事業」に変わり無く、原発や辺野古の基地建設などと同様に国の政策として優先的に進められるのである。

優先的に進められる「国家事業」においては、環境変化や土地買収など、地域の理解を得るための保証・交付金や準備金がだされ、道路や公共施設などの整備・刷新化が図られ地域に潤いをもたらされるが、工事期間だけとか政策が変われば廃止という期間限定的な、悪く言えば買収による政策推進が行われるのである。

リニアやそれに関連する駅周辺の都市開発には大成建設、鹿島、大林組、清水建設といったスーパーゼネコンのほか、熊谷組、前田建設工業、飛鳥建設など、すでに実験線建設工事で実績のあるゼネコンに発注され、基本的にはオールスーパーゼネコンの体制で建設することになるので、「国家的事業」に集く利益構造は変わらず、「赤字受注になることはな

★ リニア建設に待ったをかけた

川勝静岡知事。

川勝平太静岡知事は現在4期目で、任期は2025年7月4日まで、残り1年3カ月を残し、任期中に辞職願を提出したが、やめる大きな理由として、相次ぐ失言についての反省とJR東海がリニア中央新幹線の2027年品川〜名古屋間開業を正式に断念したからだと言っている。

リニア中央新幹線の工事開始で起こりうる大井川流域水問題を社会に訴え、有識者会議を開かせ、その過程でJR東海の問題への対策をより厳格なものにし、環境へのリスクを軽減させるようにアセスメントをきっちりやらせるようにしたその結果、リニア中央新幹線の開業は当初予定より延期になった。静岡県におけるリニア問題への解決に一定の筋道をつけたことで失言発言問題を含めて途中辞職するのだと。

川勝平太氏は、早稲田大学政治経済学部で教授、静岡文化芸術大学学長や理事長を務め、『文明の海洋史観』などの著書で知られるように、これまでの歴史の見方が陸地を中心とした見方だったのに対し、海の視点からの「海洋史観」の考えを広めた経済史研究者でもあった。元静岡県知事の石川

川勝知事は彼自身も言うようにリニア中央新幹線賛成派で、「大井川の水量および生態系の影響」を熟考する条件なら賛成であると表明している。

静岡県内のリニア建設地域は県の北側、南アルプス塩見岳付近の地下に南アルプストンネル（仮称、延長約25km）のうち、静岡市葵区の約8.9km区間のみだから、駅もなただ通すだけで静岡県には何の見返りはないが、工事車両が行き交う静岡市井川地区と静岡市中心部間の道路整備や静岡富士山空港真下の東海道新幹線新駅設置などの案（この案は近くに新掛川駅があることから却下されている）をJR側に求めるなどしており、一定の見返りを求めている。

ルプストンネルの工事を実施すると、大井川の水量が最大毎秒2ト減少するとの予測をしめし、静岡県は、大井川の水は静岡県民の6人に1人にあたる60万人分の生活用水だけでなく、事業や発電にも利用され、「命の水」に該当するとして、トンネル湧水の全量は大井川に戻すことを求め、JR東海は、最初は「全量戻す」と約束したが、2008年8月になって「一定の期間は水を戻さない」と表明したことから、静岡県はあくまで全量戻すことを求め、水資源の確保と自然環境の保全について、47項目（うち17項目が解決済みになっている）にわたってJR東海に回答を求めている。

静岡県が大井川の水を全量戻すことにこだわる理由は、かつては「富国有徳」について静岡県発行の「ふじのくに」有徳の人」づくり大綱―誰一人取り残さない教育の実現に向けて―」において川勝はこう説明している。（前略）「富国有徳」は、霊峰・富士の字義を体し、「富（豊富な物産）」は「士（有徳の人材）」に支えられ、「富」は「士」のために用いる、「徳のある、豊かで、自立した」地域をつくり、富士山の姿に恥じない理想郷を目指すものです。「ふじのくに」づくりの礎は「人」であり、霊峰・富士の姿のように、気品をたたえ、調和した人格を持つ「士」すなわち「有徳の人」の育成が「ふじのくに」の教育理念です。―川勝平太、ふじのくに「有徳の人」づくり大綱―誰一人取り残さない教育の実現に向けて―まだ同書においてこの考え方はSDGSの考えと合致するとも述べている。

注 富国有徳
川勝氏は自著『富国有徳論』などの中で「富国有徳」の概念を提唱している。「富国有徳」について静岡県発行の「ふじのくに」有徳の人」づくり大綱―誰一人取り残さない教育の実現に向けて―」において川勝はこう説明している。（前略）「富国有徳」は、霊峰・富士の字義を体し、「富（豊富な物産）」は「士（有徳の人材）」に支えられ、「富」は「士」のために用いる、「徳のある、豊かで、自立した」地域をつくり、富士山の姿に恥じない理想郷を目指すものです。「ふじのくに」づくりの礎は「人」であり、霊峰・富士の姿のように、気品をたたえ、調和した人格を持つ「士」すなわち「有徳の人」の育成が「ふじのくに」の教育理念です。―川勝平太、ふじのくに「有徳の人」づくり大綱―誰一人取り残さない教育の実現に向けて―まだ同書においてこの考え方はSDGSの考えと合致するとも述べている。

次ページに続く

コラムの窓… PFOS汚染の最前線、沖縄テレビ放送からの報告！

「島国の沖縄では、人々の命を支える『水は宝・水どう宝』。しかし、その水に異変が起きている。2016年、沖縄県は45万人に供給される北谷浄水場の水道水に有機フッ素化合物・PFOSが含まれていたと発表。それは人体への悪影響が指摘され、国際条約で使用が原則禁止とされた化学物質だった」

2022年5月に放送されたOTV報道スペシャル『水どう宝』が多くの反響を受け再放送され、さらにDVD化によって全国に波及中です。私も知人からの紹介で入手し、上映会の開催を企画しました。永遠の化学物質PFAS（有機フッ素化合物）汚染の危険性については先月のコラムでも触れましたが、母体から胎児に移り低体重等の影響が指摘されています。この事実を知った北谷町の妊娠中の仲宗根由美さんは危機感から立ち上がり、行動し、町議としての一歩を踏み出すまでに突き進んでいます。米軍基地によるこの汚染、本国のアメリカではさらに深刻に広範囲に及んでいる実態をOTVは追います。PFAS全面禁止を義務付ける「アマラ法」を命を賭して実現させた女性アマラ・ストランディさんは、法案成立の3日前に亡くなりました。アマラさんは2023年1月24日、ミネソタ州議会を病を押してスピーチしました。

「私は今20歳で15歳の時にステージ4の繊維層状肝細胞癌と診断されました。これは50万人に1人の命を奪う非常にまれな肝臓癌です。これまで20回以上の手術を受けて、その中には2回の肝臓切除と胸部を切開する手術が1回含まれています。私に何の落ち度もないのに有害な化学物質にさらされてしまいました。そして私はこの癌で死ぬことになりました」

生前の映像も紹介され、「私に何の落ち度もないのに有害な化学物質にさらされてしまいました。そして私はこの癌で死ぬことになりました」米で協議中にも関わらず、汚染物質を含む汚染水を公共下水道へと放出。理由は「従来の処理では、財政的な負担が大きい為」というものでした。また、米軍は18年に世界中の基地で汚染調査を行っていたのですが、日本は含まれていません。在日米軍は日米地位協定に守られ、日本政府は手を触れることはなく放置。水や土壌の調査を行えば汚染を確認することができず、国や自治体はやらないので市民が自前で行う、さらに血液検査も行う。映像に登場する女性たちはそんなふうに関心、前に進もうとしていきます。化学物質が氾濫し、環境が汚染され、あらゆる生物が生命の危機に直面している現代、私たちの（親から子へとつながる）身体も無縁ではありません。手遅れになる前に、という思いを掻き立てられる映像です。（折口）



水量も多く橋もない「越すに越さぬ大井川」だったがダム建設など開発によって大井川が慢性的な水不足に悩まされていることや東海道本線の丹那トンネル工事では大量湧水による水枯れ発生で水田農家が大打撃を被った被害例もあり、「渇水は深刻な問題である」として、工事による流量の減少は、南アルプスの貴重な生態系にも大きな打撃を与えることを懸念している。

市民派としての川勝知事はこうした声を代弁したものであり、その成果として、水問題も田代ダムからの流出量補填案が示されるなど新たな段階に入っている。

国家的プロジェクトとしてのリニア中央新幹線建設は静岡県民の了承を得ない中で進められ静岡県内ばかりではなく工事区間での地盤沈下や崩落や事故、談合や買収問題の発生により工期が遅れることが明らかになる中、県知事として問題提起し、筋道をつけたとの判断をしたのではないかと

★ 火山・地震多発の日本で

リニアは大丈夫か

国家的プロジェクトとしてのリニア中央新幹線建設は、建設ありきで問題が発生するたびに対処するやり方で推し進められている。鉄道で起こりがちな脱線事故については、リニアは車輪を磁力で浮き上がらせて走ることから脱線の心配は無いという。高速で走るためには上下や曲がりがない直線的なリニア軌道が必要であり、山が多い日本では平行で直線を保つためにトンネルを掘り、地下に線路を引くことになる。

向けて技術実証を続けている。また、赤石山脈（南アルプス）など多くの山を通過するため地形・地質問題のクリアも課題となっている。JR東海は最短距離の赤石山脈を貫通する「南アルプスルート」を決めたが、糸魚川静岡構造線の大断層帯を長大トンネルで貫通することになるため、この工事を含めて超難工事が予想されている。

静岡県の水問題だけではなく、建設地域の環境破壊問題や難工事によって2027年開業予定だった東京・品川駅・名古屋駅間開業予定は2034年以降になり、名古屋駅・大阪市内（新大阪駅の予定）間開業予定も2037年、2045年になった。

リニア中央新幹線は山間部に建設されるため、超電導リニア方式での積雪対策技術が開発されており、山梨実験線では積雪時の走行や除雪、設備の耐久性なども研究対象になっており、中央新幹線に

建設地域の環境破壊問題や難工事によって2027年開業予定だった東京・品川駅・名古屋駅間開業予定は2034年以降になり、名古屋駅・大阪市内（新大阪駅の予定）間開業予定も2037年、2045年になった。

10年は延びたりニア中央新幹線構想の建設だが、この間でも後でも日々変わる自然や社会環境にどう関わり、時間や空間をコントロールし、住みやすい社会を作っていく人間の英知が問われるだろう。（光）

「人種主義の歴史」

平野千果子著 岩波新書 本体価格940円

本書は、白人優越思想の根源を「人種」主義にあるとし、それにより構築された暴力的な差別システム等の実態を、大航海時代から今日まで大きく通観した本である。○

本年4月25日、グテレス国連事務総長は、「奴隷及び大西洋間奴隷貿易犠牲者追悼国連デー」に発表した声明で、過去の奴隷貿易に対する金銭的補償の必要性を訴えた。15世紀から19世紀の間、アフリカ大陸から少なくとも1250万人が欧州の商人などによって誘拐あるいは移動を強制されて奴隷として売られ、劣悪な航海を乗り切った人々はブラジルやカリブ海諸国の大農場で重労働を強いられるなどの苦痛を味わったのだ。グテレス総長は、昨年9月に公表の国連報告書にある「関係諸国

最初に本書の立場を端的に記述しておく、人種という言葉が人の種を表すのであれば、人間の種は唯一つであり、その意味で「人種」はないという立場に立つ。人種という言葉は、諸説はあるものの、元々は家族や家系・血統と同意語として使用されていたものだ。その後、武器を持たない彼らはスペインから戦争を仕掛けられ、虐殺・強制労働をさせられるなど、過酷な生活を強いられた。これに関してはラス・カラスの告発が有名である。こうした状況下、スペインでは「インディオは人間か」論争が起こり、一旦は人間と認められたものの、鉱山での彼らの強制労働の必要性から奴隷化が容認されたのである。カリブ海での虐殺による労働人口の減少から大西洋奴隷貿易が発展した。15世紀半ばには黒人奴隷は既にイベリア半島にもいたのである。それまで奴隷と言え

読書室



1488年のインド洋到達、1492年のコロンブスの航海によりその意味が変わった。

スラブ民族(スレイブ)が主だったが、オスマン帝国の勃興による政治情勢の変化により、黒人が主となってゆく。これにより奴隷と黒い肌が同一視されるようになっていったのである。

そもそも『旧約聖書』の「創世記」第9章にあるノアによる「カインの呪い」とはアフリカ人は奴隷として運命づけられた人々のことだ、とのキリスト教徒の決めつけがある。そしてこの物語は、これとあることに黒人奴隷化の正当化に利用されたのである。

16世紀になると新世界の探検は更に進んで、そこで発見された様々な先住民の分類が進められた。分類学者のリンネは、アメリカ人(インディオ)、ヨーロッパ人、アジア人、アフリカ人の4分類にした。肌の色はそれぞれ、褐色、白、黄、黒。性格はそれぞれ、怒りっぽく頑固で自由を好み、活発明敏かつ器用で創造的、鬱的で厳しく贅を好み吝嗇、狡く怠惰で投げやり。統治はそれぞれ、慣習により、法により、意見により、支配者の恣意により行われているとした。まさに「人種主義の発生と恣意性の原点ではないか。

スウェーデンのリンネは、さらにヨーロッパ人の身体的特徴として金髪碧眼としたが、北欧には多いものの、ヨーロッパ全体のものではないことはすぐに了解されることだろう。

リンネと対立し、自然の多様性を説明するフランスのビュフォンは、人間は種としては単一だが、その相貌からは4種類に止まらないとした。ではこの見た目の違いはどこから来るのか。ビュフォンは、最も美しいとした白人を人間の原型とみなし、肌の違いはそれから「退化」したとする。つまり原型の対極は黒。退化の理由は気候だとした。アフリカのホットな地域をヨーロッパに連れてきて何代か「交配」させれば、元の白に戻るかが「観察」できるとした。これまた驚くような、人を「もの」視する迷論ではないか。

リンネとビュフォンに続いて登場したのがドイツのブルーメンバッハであった。彼は『形質人類学』の祖の一人とされる。彼は、白人に相当するコーカサス、黄色のモンゴル、黒いエチオピア、赤いアメリカ、黒いマレーの5分類とした。フランスのキュヴィエは、白人IIコーカサス、黄色人IIモンゴル、黒人IIエチオピアの3分類にした。コーカサスとは、今日のアルメニア、アゼルバイジャン、ジョージアである。ブルーメンバッハの美の基準はコーカサスの白人であり、その重要なものは頭蓋骨であるとした。当時、頭蓋骨の研究についてはオランダのカンペル、ドイツのガルが著名だった。そしてキュヴィエもコーカサスは美しい卵型の頭部に特徴づけられる上、最も文明化しているとしたのである。

またスコットランドのソックスは、サクソン人たるイングランド人が最優秀との立場から白人を4分類する。さらに人間の起源の単一論と多元論が論争に加わり、混沌となる。

ここでコーカサス人が美しいとされたのは、ノアの方舟が着いたところ、そこにプロメテウスが磔にされたとのギリシア神話もあり、人類発祥の地とされたこととも関係する。

また古典サンスクリット語の研究が進み、この言語と古典ギリシア語とラテン語が共通の源から発した可能性をイギリスのジョーンズが発表した。ドイツのシュレーゲルがこの説を整理し、さらにイギリスのヤングが「インド・ヨーロッパ語」と名付けたのである。

この流れの中でインドの存在が注目され、インドがすべての文明の源だとする立場も生まれた。言語の起源が同じならヨーロッパ人の起源もインドということになってゆく。ドイツでは、クラブプロトによってインド・ヨーロッパ人は「インド・ゲルマン人」とされ、後にサンスクリット語で「高貴な人」IIアーリア人と言ひ換えられてゆくのである。

かくて「人種」分類と言語学の交差からアーリア人が生まれ、その後のヨーロッパの政治世界の中で、ヒトラーらによって理屈付けられ、猛威をふるうことになっていく。

ではこのような「人種」主義、つまり人間を分類する思想を啓蒙思想家はどのように考えていたのか。本書は、これまであまり語られてこなかった彼らの実像を鋭く描写する。

18世紀末、人間の平等や自由を掲げた「アメリカ独立宣言」やフランスの「人権宣言」が発表されたのと平行して、ブルーメンバッハの5分類が発表されていた。分類は集団間の相違や差異を言語化するものであるから、当事者の意図とは別に人間を序列化する。国内にある格差は、世界規模に拡大する。こうして一方が他方を利用するようになる。

イギリスのロックスは、奴隷制度を認め奴隷貿易に投資せよと呼びかけ、ヴォルテールは黒人に対する過酷な取り扱いを批判するも奴隷制度そのものを問題視はしていない。そもそも彼は人種の違いを認めていた。ヒュームも同じ立場だ。カントも人種は4分類の立場である。モンテスキューは、怠惰な人々は奴隷になるとし、奴隷そのものに無反省だ。

最後に自然人を称揚したルソーについては未開人を理想化したように捉えられているが、黒人が奴隷にされていることや奴隷制度への言及もなく、その意味でルソーの思考では彼らが捉えられていない。まさに実子を孤児院前に捨てられ、猛威をふるうことになっていく。

こうして「人種」主義は、ユダヤ人にまで拡大し、旧世界ではドイツを中心として、新世界ではアメリカを中心して猛威をふるう。アメリカでは優生学学会が実際の社会政策にまで口を出し、断種法や移民禁止法等の「人種」主義的立法を次々と成立させた。これに学んだナチスのヒトラーは政権につくや、「職業官吏再建法」を発令し、アーリア人条項を導入して、非アーリア人官吏の排除を定めた。非アーリア人とはユダヤ人の系統を引く者とされ、両親の二人と祖父4人の内、1人でも非アーリア人であればその者はユダヤ人とされた。ユダヤ人は反ユダヤ主義が作った等の説がある一方、他方で国際的な定義はユダヤ教徒であるとされるが、ナチスは定義を血筋で決定するとの暴挙に出たのである。

私たちは人類は唯一つの立場から、「人種」論の間違いを糾してゆかねばならない。

その後、「ドイツ人の血と名誉を守るための法」と「ドイツ国民法」により、ドイツ人とユダヤ人との結婚と性的関係の禁止となった。つまりナチスは、ユダヤ人との「混血」避けるため、ついにドイツ人とユダヤ人との性的結合の禁止に至ったのである。

では「純血」のドイツ人とはいるのか。ナチス親衛隊への入隊資格は「純血」のドイツ人とされた

が、現実にはドイツ人は「混血」である。ホモサピエンスには絶滅を引きついでいる。その意味では現生人類は「混血」なのである。ナチスのやったことといえば、現実のドイツ民族を肯定するのではなく、観念の上でアーリア人II「ドイツ人種」を創ってゆくことになった。つまりドイツに好ましい子供の育成とその対極としての劣等であるユダヤ人の排除や虐殺は、その両輪だったのである。

今、「人種」主義は、アフリカ諸国の独立による「奴隷及び大西洋間奴隷貿易犠牲者追悼国連デー」の制定が象徴するように糾弾の対象である。またアメリカでも、奴隷制の廃止以降も引き続き黒人差別への抗議する公民権運動によっても黒人差別はなくなっていない。警官の黒人に対する横暴も止むことはなく、あのフロイド事件は起こったのだ。

警官による黒人殺害が続く中でBLM運動も高揚している。アメリカでもワシントンやジェファーソンの像まで撤去されたように、アメリカの歴史の見直しが進んでいる。

三上智恵さんの 集英社新書 「戦雲(いくさぐも)／要塞化する沖縄、島々の記録」

もう映画「戦雲」を見た人もいると思う。また、三上智恵さんを知っている人も多いだろう。

三上智恵さんはジャーナリストであり映画監督でもある。琉球朝日放送でキャスターを務める傍らドキュメンタリー映画を制作してきた。

2013年に初監督映画「標的の村」でキネマ旬報文化映画部門1位のほか19の賞を受賞。フリースタイルに転身後、2015年に映画「戦場ぬ止み」、2017年に「標的の島／風かたか」を発表。続く映画「沖繩スパイ戦史」(大矢英代との合同監督作品)は、文化庁映画賞他8つの賞を受賞している。

著書には「証言／沖繩スパイ戦史」(集英社新書、第7回城山三郎他3賞を受賞)、「戦場ぬ止み、辺野古・高江からの祈り」『風かたか「標的の島」撮影記』(ともに大月書店)などがある。

本書の前書きには「アメリカと日本政府が主導する。近隣諸国を仮想敵として防衛計画のもと、戦力配備が続く沖縄、南西諸島は予断を許さない状況が続いている。基地の地下化、シエルター設置、

弾薬庫の大増設、離島を含む空港と港湾の軍事化が、民意をよそに急ピッチですんでいるのだ。著者は2015年以来、沖縄島のみならず与那国島、宮古島、石垣島、奄美大島などを歩き、実態を取材してきた。2022年末の安保三文書では『南西諸島にミサイルを並べ、最悪の場合報復攻撃の戦場になるもやむなし』という現地の犠牲を覚悟したものであることも暴露された。本土メディアがこの問題をほとんど報じない中、沖縄から日本本土に広がる戦雲の予兆に警笛を鳴らす」と書いている。

エピソードでは「お読みいただいたみなさんには、最後にあらためて本を閉じ、カバリーの絵を見て欲しい。小型でがっしりした与那国馬にまたがり、髪を振り乱し暗雲にいつ進む少女の姿。鞍も付けず、たてがみをつかんで膝で馬を挟み、暗雲を蹴散らすと挑むその表情は見えないが、阿修羅のごとくであろうか。彼女の着物は与那国島の織り。馬の左目は傷つ

いた。一方で、本の裏側に配置された絵は優しい。ヤギと心を通わせるあどけない少女が描かれている」と書く。

最後に「幸い、私は島々を歩いていてそんな智恵や言葉を持った人たちに会える確率が高い。祖先から受け継がれてきた宝物を持っている人から教わることも多々ある。泣いても笑ってもダメなら、歌うしかない。最後は歌なんだ！祈りなんだ！と知る。戦雲を吹き飛ばすまで、歌と祈りを止めない人たちにもっととつと出会いたいから、相変わらず肝は据わっていないけれど、やっぱり私はこの仕事を続けていきたい」と三上智恵さんは述べている。

この三上智恵さんの「戦雲」を是非とも読んでほしいと思う。(富田英司)



た。スコットランドのソックスは、サクソン人たるイングランド人が最優秀との立場から白人を4分類する。さらに人間の起源の単一論と多元論が論争に加わり、混沌となる。

ここでコーカサス人が美しいとされたのは、ノアの方舟が着いたところ、そこにプロメテウスが磔にされたとのギリシア神話もあり、人類発祥の地とされたこととも関係する。

また古典サンスクリット語の研究が進み、この言語と古典ギリシア語とラテン語が共通の源から発した可能性をイギリスのジョーンズが発表した。ドイツのシュレーゲルがこの説を整理し、さらにイギリスのヤングが「インド・ヨーロッパ語」と名付けたのである。

この流れの中でインドの存在が注目され、インドがすべての文明の源だとする立場も生まれた。言語の起源が同じならヨーロッパ人の起源もインドということになってゆく。ドイツでは、クラブプロトによってインド・ヨーロッパ人は「インド・ゲルマン人」とされ、後にサンスクリット語で「高貴な人」IIアーリア人と言ひ換えられてゆくのである。

かくて「人種」分類と言語学の交差からアーリア人が生まれ、その後のヨーロッパの政治世界の中で、ヒトラーらによって理屈付けられ、猛威をふるうことになっていく。

袴田冤罪事件、裁判傍聴券を獲得しました！

4月16日、大阪発の夜行バスで静岡を目指しました。前夜からの雨は、静岡地裁に到着すると青空が見え、陽射しで汗ばむぐらいでした。8時30分集合には間に合わなかったのですが、何とか傍聴整理券は受け取ることが出来ました。

裁判開始前の集会で、担当弁護士の方の挨拶があり袴田冤罪事件の真相を明らかにすることが、憲法を守る、戦争に反対することに繋がるという壮大なテーマでした。支援のポスターたちが作られた横断幕が張られ、その袴田さんのパンチのポ



ズからは、裁判所への闘う意気込みが感じられました。袴田冤罪事件にかぎって、傍聴人に対する奇異な行き過ぎた荷物と身体検査は、事前に送られてきた抗議文を読んでいたのである程度の覚悟はありました。まず、持ち物検査をする前に、職員から口頭で持ち込み禁止の物品の説明があり、要するに筆記用具のみOKということでした。私は持っているませんが、携帯電話は特に持ち込みが発覚されると、直ちに退場させられると何度も説明を受け、うんざりでした。

午後の4時30分までの公判は、昼休みと午後からの20分の休憩があり、入廷前の検査は3回に及びました。その度に、男性職員により全身を探知機で検査される不快感は、人権侵害と言ってもいいでしょう。検査自体も問題ですが、女性に対しては女性の職員が対応をすべきと、抗議しておきました。

私たち傍聴人が入ると、既に裁判

が、現実にはドイツ人は「混血」である。ホモサピエンスには絶滅を引きついでいる。その意味では現生人類は「混血」なのである。ナチスのやったことといえば、現実のドイツ民族を肯定するのではなく、観念の上でアーリア人II「ドイツ人種」を創ってゆくことになった。つまりドイツに好ましい子供の育成とその対極としての劣等であるユダヤ人の排除や虐殺は、その両輪だったのである。

今、「人種」主義は、アフリカ諸国の独立による「奴隷及び大西洋間奴隷貿易犠牲者追悼国連デー」の制定が象徴するように糾弾の対象である。またアメリカでも、奴隷制の廃止以降も引き続き黒人差別への抗議する公民権運動によっても黒人差別はなくなっていない。警官の黒人に対する横暴も止むことはなく、あのフロイド事件は起こったのだ。

警官による黒人殺害が続く中でBLM運動も高揚している。アメリカでもワシントンやジェファーソンの像まで撤去されたように、アメリカの歴史の見直しが進んでいる。

「人種」主義に関心がある読者には、手頃なものとしてこの本を薦めたい。(直木)

袴田さんとの肩を並べています。検査はひで子さんの真剣な眼差しを前にして、どんな陳述をするのか、私は傍聴出来たことへの責任を再度、確認せずにいられます。

袴田さんの無実を実証する弁護側のDNA鑑定の説明は、そもそもDNA鑑定がどんなものなのか、実際の鑑定している現場の映像を紹介し、時間をかけて分かりやすく行われました。ところが、残り30分ぐらいで検察側の反論が行われ、何かしら自信のある発言に、こちらの形勢がやや不利なのではと感じてしまいました。

しかし、その後の記者会見の場で、ひで子さんの2人の弁護士活躍を誇る言葉に、その心配は吹っ切れました。そして担当弁護士からのDNA鑑定を取り上げるなどの意義を聞き、本来なら検察側に説明責任があることを敢えて避けてきた検察の無責任さを確認出来ました。5月22日は再審公判の結審です。全国からの支援者が結集されることでしょうか。読者の皆さんも関心を持ち続けましょう。(折口恵子)

検察は何一つ有罪立証が出来ていない

4月24日(水)第14回再審公判が行われる小朝、静岡地裁に70人ほどの傍聴希望者が訪れた。毎回抽選が行われ、当選の確率ほぼ3〜5人に1人、14回目にして初めてという人もいる。私は当然、傍聴(3度目)に入る。

この日11時から、

昼の休憩をはさみ14時45分まで、検察側はDNA型鑑定について弁護側に反論するた

め、意見書や過去の捜査報告書などの証拠をただただ延々と読み上げ続け、「犯行着衣の血痕と袴田さんのDNA型は一致しない」との本田鑑定は、信頼で

袴田巖さんに完全無罪判決を!

色鉛筆



きないことを証明しようとした。淡々と文書を読み上げる声が続く中、いつもはメモを取る傍聴席の記者も傍聴人も、この日ほとんどメモを取らない、それほど空虚な内容だった。

3月25・26・27日と3日連続行われた公判での証人尋問の際も、着衣の血痕に赤味が残るかをめぐる相方の攻防が「最大の山場」と言われたものの、結局昨年の東京高裁の決定どおり、赤味は残らないつまり「捏造された証拠」であることが明らかとなった。弁護側証人の旭川医科大学

清水恵子教授らは実証実験を繰り返して、赤味が残らない確証を得ているのに対し、検察側証人の法医学者、久留米大の神田芳郎教授からは、実験をすること無く7人で、3回のWeb会議の末に作った共同鑑定書を提出し、うち2人が公判に出席。法廷では延々と専門用語を並べ立てる他は、清水教授らの実験へのまるで重箱の隅をつつくような発言を繰り返した。

有罪立証を支えるはずの証人尋問が、的外れでむしろ逆効果をもたらした印象で、お粗末としか言い様がない。終了後の記者会見で角替清美弁護士が「料理しない人間が文句言ってるに等しい」との怒りの発言は言い得て妙、痛快。検察組

織として、袴田さんの有罪を立証しようとしているが、立証とはほど遠いお粗末な内容だ。

1966年清水の一家4人が殺害された事件で、袴田さんは逮捕・拷問の末「死刑囚」とされてしまったが、無実の訴えを叫び続

け58年、今ようやくその声が届きそうなのにたどり着こうとしている。2014年3月静岡地裁(村山浩昭裁判長)が、そして2023年3月には東京高裁(大善文男裁判長)がともに再審開始決定、つまり「間違った裁判をや

り直す」との決定をすでに出している。2度ともに捜査機関による証拠の捏造の可能性が指摘された。

無罪は明らかにもかかわらず、なぜ今だにそこにたどり着けないのか?原因は10年前の検察の抗告(不服申し立て)であり、さらに昨年3月の決定時には抗告こそしなかったものの(出来なかった?)、「立証方針を決めるため」と3ヶ月間もの猶予期間を求め、あげく7月には「有罪立証」の方針を発表した検察にある。その後ようやく10月から始まった再審公判は、今年5月22日の結審までの間15回も、毎回11時〜17時まで行われている。

膨大な時間の浪費だと一々傍聴のたびに痛感する。これは犯罪的行為であるとさえ思う。かつて証拠の捏造に手を染め、それを正すどころか加担した検察が今取り組むべき事は、その誤りを正すこと以外にはまずではないのか? 4月24日、私は法廷の入り口の扉の『住居侵入・強盗殺人・現住建造物等放火(再審)被告人・現住建造物等放火(再審)被告人・現住建造物等放火(再審)被告人』と書かれた張り紙が初めて目に入り心が凍る思いをした。今回の公判での一般

★集会案内

- ・日時 5月11日(土) 13時半〜16時
- ・会場 静岡労政会館ホール
- ・集会名 「袴田さん完全無罪へ、死刑求刑を許さない 逆転のクロスカウンターで K0 勝利を!」
- ・主催 袴田巖さんの再審無罪を求める実行委員会

★集会案内

- ・日時 6月30日(日) 13時半〜16時
- ・会場 清水テルサ6F 研修室
- ・集会名 「袴田巖さんに完全無罪判決を!」清水集会
- ・主催 袴田巖さんを救援する清水・静岡市民の会